第46回

第46回全道医家囲碁大会

名人戦は樋口栄作６段格が６度目の優勝！
本因坊戦は仲俊之４段格が３度目の優勝！

第46回全道医家囲碁大会の報告

全道医家囲碁連盟
幹事　杉目　正尚

祇園精舎の鐘の声、諸行無常の響きあり・・・永遠に続くと思われた７冠井山裕太から、昨年、元５冠張栩が名人位を奪還した。さらに今年10月にその名人位を奪ったのが芝野虎丸19歳・・・。樋口家にあらずんば碁打ちにあらず、とまで言われた平成の世。令和に変わりいよいよ乱世に入るのか。それとも南田名人、高田名人とは末世への予兆にすぎないのか。いざハルマゲドンへ。

11月17日、札幌は朝から吹雪の囲碁日よりでした。札幌市医師会館に集合したのはいつものメンバー、名人戦12名、本因坊戦８名、上村プロの指導碁のみの参加が２名でした。初参加はなく、年々参加数が減少していることが心配です。大会運営上ちょうど良い人数で、トラブルもなく無事全員が打ち終えました。結果、優勝は名人戦がやはり本命の樋口先生、本因坊戦は仲先生でした。試合の詳細は各先生の優勝記に委ねます。６度目の優勝の樋口先生につきましては何度も記されていますので、今回は仲先生の経歴をお伝えします。

仲俊之先生は60歳、囲碁は13歳で覚えたそうです。当本因坊戦、優勝３回準優勝２回の好成績でそろそろ名人戦へ挑戦する時期かと思われます。旭川医大卒、旭川市の森山病院にて整形外科を担当されています。好きな棋士は本因坊道策とのこと、今後の活躍が期待されます。

さて、私事、この度『囲碁国際交流の会SIIG』の会長に就任しました。HP：www.igokokusai.com 会員約100名の全国NPO法人です。歴史ある会でかつては海外文化交流事業として文化庁からも補助金が出ていたのですが、東日本大震災のあと査定されてしまいました。

主な活動内容は、海外へ行って現地の囲碁組織との交流、大会に参加することで、キューバ・メキシコ・チリ・アルゼンチン・スペイン・タイなど過去17ヵ国を訪問、交流しています。また欧州コングレス、韓国金寅杯などに毎年数名で参加しています。

その他、世界アマチュア戦などで来日した選手の歓迎、囲碁指導者の海外派遣なども行っています。昨年ブータン国王に請われて、当会員２名がティンプーのご自宅まで教示に行きました。ワンチェク国王は、ネットに夢中の若者たちに囲碁などの考える文化を広めていきたいとおっしゃっていました。キューバに１年間滞在して指導した会員もいます。

2020年は１月にチリ交流会、続いてタイ、スペインなどの訪問を計画しています。ちなみに会員の平均年齢は73歳。お暇な方は私まで連絡ください。

（写真）2019年欧州コングレスinブリュッセルでの第１試合。私の黒番、対戦相手に見とれて負けました。

名人戦優勝記

ひぐち耳鼻咽喉科
樋口　栄作

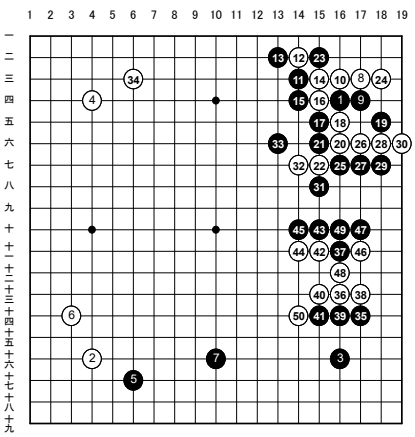
この度、第46回全道医家囲碁大会名人戦に３年ぶりに優勝することができ、大変うれしく思います。なかなか囲碁に時間をかける余裕がなくて、準備も十分とは言えませんでしたが、優勝できたのは幸運でした。今年も１回戦がシードとなり、２回戦からの対局は、武田圭佐先生、富樫久夫先生、そして決勝戦の高田稔先生と、どの局も激しい戦いの碁になりました。以下は決勝戦の解説です。

私の黒番で、双方２連星に構えました。白８のダイレクト三々はAI以来流行です。黒11のケイマ、13の抑えと最強に応じ、一歩間違えれば潰れてしまう難解な戦いになりました。結局黒33まで、黒の外勢、白の実利という分かれになりました。個人的には黒が厚くて少し打ち易い印象です。黒35と小ケイマ締まりで模様に芯を入れましたが、すかさず、白36と肩ツキされて困りました。黒35では、白36と二間に高く締まった方が良かったと後悔しました。気を取り直して、黒37と挟んで白を攻めます。黒55まで、下辺一帯を黒の地模様にしたところで、白56と右下三々に打ち込まれました。黒59と取りかけに行きましたが、薄い手ですので、あとから白60の下辺の打ち込みにも黒61と鉄柱で譲歩した上、白66、白68と右下隅で寄り付かれました。黒57では、厚みを生かして、白58のところから迫るのが味が良くて地も得だったようです。黒65と白の勢力圏の左辺を割りました。黒71の二間開きに白72と左上隅を守って黒に圧力を掛けます。黒73から81までと下辺で地を稼いだのは気合です。当然白は82から左辺に攻勢を仕掛けてきます。黒87は或いは打ち過ぎだったかもしれません。白88以のハネダシが強烈な反発で、以下黒95まで一本道ですが、白96と急所のノゾキを受けては、黒が苦しくなりました。何とか黒111まで上辺と連絡できましたが、白112、114の二段バネが強烈で黒が困りました。しかし、左上隅の白に黒117の付け一本が効いて、左辺の大石の連絡を確かめながら、黒119と下から当てて、上辺の二段バネをした白114を飲み込む手を見つけることができたのは幸運でした。大ヨセに入ってからは、白128が小さかったかも知れません。黒129から幸便に中央の白の地模様を削減し、左辺と中央にも地を増やし、リードすることができました。最後は黒の７目半勝ちでした。

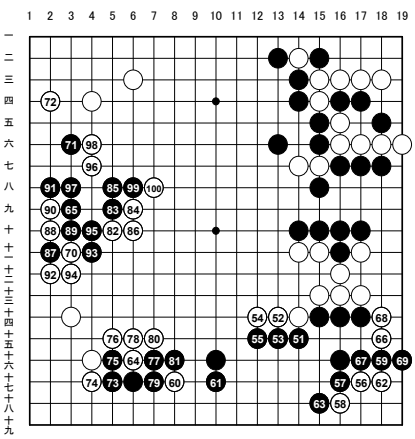
本局は、序盤で、高田稔先生の白のダイレクト三々から激しい戦いになり、黒が少し打ち易いかと思ったのも束の間、右辺への白の機敏な肩ツキから、難しい形勢になり、終盤で何とか抜け出すことができました。優勝できたのは本当に幸運でした。

今回も北海道医師会の皆様の温かいご協力をいただき、とても充実した楽しいひと時を過ごすことができました。ありがとうございます。来年はもっと勉強してさらに内容の良い碁が打てるよう頑張りたいと思います。三宅直樹会長、南田英俊副会長をはじめとする役員の皆様、上村収蔵プロには、いつも大変お世話になり誠にありがとうございました。

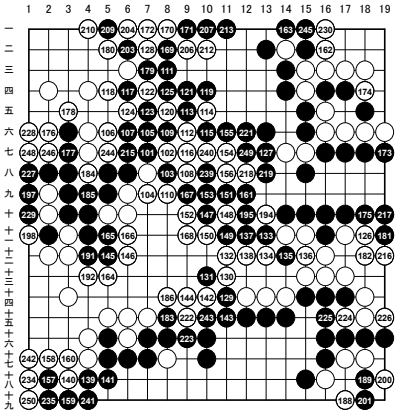
＜第１譜（１～50）＞



＜第２譜（51～100）＞



＜第３譜（101～250）＞



187(6四) 190(7四) 193(6四) 196(7四) 199(6四) 202(7四) 205(6四) 208(7四)
211(6四) 214(7四) 220(6四) 231(2十一) 232(2十) 233(1十二) 236(2十一) 237(8五)
238(8八) 247(2九)

医家囲碁大会、本因坊戦優勝記

森山病院
仲　　俊之

平成14年に全道医家囲碁大会ハンディ戦の本因坊戦に初めて出場させていただいて以来、今回は四段格で参加いたしました。

普段囲碁の勉強の為に、まとまった時間を割くことはなかなかできず、トイレの中や、車の赤信号停車中などの時間は私にとって貴重です。わずかな細切れの時間を、月刊碁ワールド（実は、図書館でこの雑誌を見つけ、「天棋」という漫画が面白くてはまってしまったのがきっかけです）の「トライアル30」や、詰め碁を解くことに利用し、あとは録画しておいたNHKの囲碁講座と早碁トーナメント戦を早送りで観る、というものでした。

第一局の相手は、私の母校、札幌西高の大先輩の三宅直樹先生（札幌･五段）です。大石を追いかけ、結局生きられてしまいましたが、攻めの余得で、昨年の雪辱を果たし勝たせていただきました。

第二局は古市武正先生（岩見沢・三段）で、序盤からねじり合いとなり、相手の大石の目を奪ったのですが、こちらも欠け眼となり、かろうじて攻め合いに勝つことができました。第三局、鈴木英軍先生（釧路・五段）との対戦では、序盤に当方の石を取られかけたのをギリギリのところで助かり、最後は時間切れ間際のきわどいところで勝利することができました。第四局は柄崎英明先生（札幌・四段）との互先で、うっかりして私の石が生き死にのかかった劫となってしまい、あわや投了か、というところまで追い詰められましたが、残りの劫材１個で助かり、結果は１目半の僅差でした。

どの対局も紙一重のところで勝ちを拾ったようなもので優勝させていただくことができたのは、僥倖以外の何ものでもありません。最後に、大会を開催、運営されました三宅会長をはじめ諸先生方、事務局スタッフの皆様に御礼申し上げます。

第46回大会成績表

【名人戦】

順　位	氏　名	得　点
優　勝	樋　口　栄　作	34
準優勝	高　田　　稔	27
第１位	杉　目　正　尚	26
第２位	滝　本　昌　俊	25
第３位	田　中　博　志	24

【本因坊戦】

順　位	氏　名
優　勝	仲　　俊　之
準優勝	柄　崎　英　明
第１位	西　村　正　治
第２位	鈴　木　英　軍

（敬称略）

日医認定健康スポーツ医制度再研修会開催一覧
（道内開催分のみ）

◇地域保健部◇

開催日時	開催場所	研修会名・内容	単位数	連絡先
令和2年2月1日(土) 16：00～18：00	北海道医師会館	第26回日本医師会認定健康スポーツ医制度再研修会 講演 １．「スポーツと栄養 ～食トレが導く未来の心と体づくり～」 医療法人王子総合病院　医療技術部栄養管理科 科長　澤岡　清美 ２．「女性の貧血とスポーツ」 北海道大学病院　婦人科　講師　小林　範子	2	北海道医師会 (011-231-1726)